

注目の業務・加工用多収品種

中食・外食のニーズに応える水稲新品種



イメージ

全国的に生産可能で9県で産地品種銘柄登録、消費拡大へ

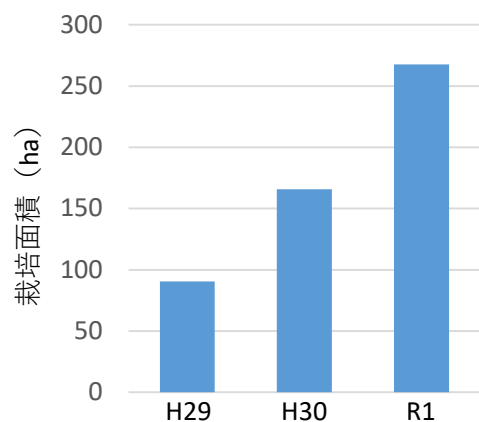
業務・加工用に適した多収水稲品種「とよめき」を育成しました。関東地方では、「とよめき」の栽培面積が250ha以上（令和元年）となり、今後もさらなる拡大が見込まれます。

また、これと併せて、**多収で炊飯米が粘りすぎないなど実需が求める品質を両立**する栽培技術を開発したことで、中食・外食産業のニーズに応えました。

今後も需要増が見込まれる業務・加工用米が安定的に供給に貢献することが期待されます。



多収な「とよめき」の立ち姿



「とよめき」栽培面積の推移

※農産物検査結果から換算
(2019年産は令和2年3月31日現在の速報値)

研究代表機関

農研機構

プロジェクト名

実需者のニーズに応じた超多収良食味業務用
及び超多収加工用水稲品種等の開発

研究期間

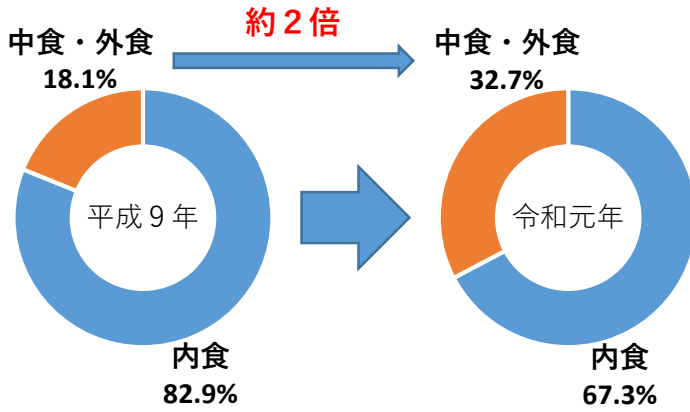
平成26年度
～30年度

共同研究機関：(株)アイホー炊飯総合研究所

研究背景

近年、中食・外食向けなど、業務・加工用米の需要が急増しており、安定的な供給が課題となっていました。

そこで、おにぎりや冷凍米飯などの加工に適し、低コスト生産が可能な多収品種の育成や、業務・加工用適性を維持しつつ、安定的に多収となる栽培技術の開発が求められました。



資料：農林水産省「米の1人1ヶ月当たり消費量」
米穀機構「米の消費動向調査」

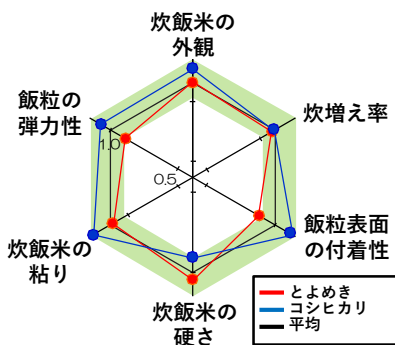
米の消費における中食・外食の割合は増加している



加工米飯の一例

主要な成果

- 1 各地域向けに、業務・加工用に適した多収水稻品種「とよめき」や「雪ごぜん」等を育成
 ➡ 全国的な生産が可能になり、**9県で産地品種銘柄に登録**（令和2年時点）
- 2 生育診断による追肥量の決定などで、多収と業務・加工用品質を両立できる栽培技術を開発し、マニュアルを作成
 ➡ マニュアルは**合計1万部以上発行**され、ポスター発表や講演会を通じて広く全国に周知



実需者の求める
炊飯米への適性を評価



ポスター発表や講演会による周知活動